

- 1 日時 令和元年 10 月 21 日（月） 午後 1 時 30 分から 3 時 30 分まで
- 2 会場 地域連携室 1
- 3 委員及び学校関係者

所属等	役職等	氏名
山口県立大学	副学長	田中 マキ子
防府市教育委員会	教育部長	林 慎一
防府市立桑山中学校	校長	田中 敬
防府商工会議所	商工振興部長	松田 和彦
	商業部 会長	坂本 恵次
	工業部 会長	東 佳範
	女性部 会長	倉員 祥子
防府観光コンベンション協会	副会長	中司 達美
防府市地域協働支援センター	顧問	於土井 豊昭
(株)丸久	人事能力開発部指導役	黒川 康生
同窓会（鳳翔会）	同窓生	勝野井 幸子
防府商工高校	校長	小土井 実
	未来デザイン部 部長	中村 英哲

※石丸委員、伊達委員は所用により欠席

【事務局】 全日制教頭 出水 定時制教頭 中司

4 概要

- (1) 第 1 回学校運営協議会の概要
- (2) 議事

ア 学校における働き方改革に関する緊急対策について

※委員からの意見等

- 基本的には学校以外が担うべき業務、学校の業務だが必ずしも教師が担う必要のない業務についての対応は、中学校ごとに異なっている。これらの業務を地域や保護者に全て任せていくのは現実的に難しい。
- 学校徴収金（主に給食費）の徴収・管理については、公会計化導入に向けて動き始めている。
- 業務の洗い出しを行い、削減できる業務を見つけていくのが解決の糸口なのではないか。
- 「業務削減」の意識を高めることは大切だが、「教育活動」としての視点を忘れてはならないと思う。
- 方法論について細かく議論しても意味はなく、学校現場を忙しくしている原因を把握し、改善につなげる努力を行っていく必要がある。学校における「情報共有に対する意識の低さ」と「会議の質の低さ」は、改善すべきである。
- 企業や事業所では、情報共有に対する意識が非常に高い。SNS 等を活用して情報の共有を行うと効率的である。
- 業務の質を担保しながら、A I や SNS を活用して生産性を上げていく必要がある。

イ 機械科のサークル活動について

※委員からの提言・意見等

- このような活動の機会を増やすことが、学校の P R 活動になる。
- 活動を P R することが大切である。地域の文化祭等で活動してみてもどうか。
- 学校に地域の小学生を呼ぶといった活動は、生徒にとっての学びの幅を広めるのに効果があったのではないか。
- 高齢者や福祉施設に機材を持ち込み、リハビリ感覚で遊ぶ機会をつくると面白いのではないか。
- 古民家を改修して防府市の観光資源である「鋳物」を P R するという活動は素晴らしいと思う。
- 継続性を意識しながら、活動をどんどん膨らませて欲しい。

ウ 本校における地域連携教育の充実・発展にむけて

※委員からの提言・意見等

- 防府市と山口県立大学は包括協定を結び、カメラを通して街並みや景観の素晴らしさについての情報を発信する活動を行っている。幸せますカメラ女子部も、地域との縁を大切にして長く活動を続けて欲しい。
- 防府市の先輩として、後輩を育てることを目的として、防府商工高校と連携した活動を行っている。活動後の振り返りを教育活動に活かして欲しい。
- 地元の小中学校への学習ボランティアに対してお礼申し上げます。地元の小中学校を卒業した高校生が、母校に戻って小中学生のお世話をするという循環を作っていきたい。
- 素敵なお兄さん、お姉さんの姿を小中学生に見せて、シビック・プライドの醸成や防府市への定住促進に貢献して欲しい。
- 防府商工高校が開発した鉄玉子「たぬぼん」をもっとPRして販売してみてもどうか。
- 開発商品をマネジメントしていく（商品化後の売り方を考える）必要性がある。
- 防府商工高校が開発した商品のリストを作成するとよい。
- 防府市の人口は、ここ10年で2,000人減少しているが、世帯数は増えており、核家族化や就労目的の外国人の流入が進んでいる。このままではコミュニティの維持に不安を感じている。
- コミュニケーションの取り方が上手くない子どもが多い。経験と振り返りが人を成長させることから、「経験」や「発表」の場づくりが必要であると感じる。

エ 学校運営協議会パブリックビューイング → 趣旨の説明、次回以降に検討

5 連絡事項

- ・第3回会議の期日について 令和2年2月中旬（予定）